

## 既刊案内 (特集・主要記事)

### [10月号]

◎「シリーズ 次代を担う衛生・環境工学者 No.71」鳥取大学工学部 社会システム土木系学科 准教授 高部祐剛氏を訪ねて下水からのリン資源回収や微細藻類を活用したエネルギー生産に取り組む…水道ネットワーク通信・有村源介 ◎「特別対談」アジア工科大学学長 山本和夫氏と福山市立大学名誉教授、堤行彦氏～これからの水インフラと人材育成～ ◎「国土交通省インフラシステム海外展開行動計画 2022」を決定…国土交通省 ◎「東京のDX推進強化に向けた新たな展開」の公表について…東京都デジタルサービス局 ◎「民間によるJCM(二国間クレジット制度)活用のための促進策のとりまとめに向けた提言」を公表します…経済産業省及び環境省 ◎「多摩地域のイノベーションエコシステム形成に向けた取組方針」の策定について…東京都 ◎令和3年の水害被害額(暫定値)は全国で約3,700億円…国土交通省 ◎水循環教材の活用事例集(小学校編)の公表…内閣官房水循環政策本部事務局 ◎第25回日本水大賞の募集を開始…国土交通省◎「明日への道標」兵に常務なく水に常形なし一武田信玄 治水の兵法一…(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也◎「東京見て歩き(105)」早稲田大学とその近辺…(一社)スマート水道推進協会会長・(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道◎「特別連載」平成を偲ぶパロディ狂歌集(42)一平成一人百首地方行政②(全5首)…弁護士 野平大魚 ◎「フォトエッセーNO.4」IDE配管セミナーの開催と2022年秋季セミナーの開催計画…IDE研究所 井出浩司 ◎建築着工統計[2022年7月]…国土交通省 ◎エッセイ 西村修一、新田純子

### [11月号]

◎「シリーズ 次代を担う衛生・環境工学者 No.72」近畿大学工業高等専門学校 総合システム工学科土木(環境)系准教授 安井宣仁氏を訪ねて 紫外線による消毒の普及に取り組む…水道ネットワーク通信・有村源介 ◎「特別対談」丹保恵仁先生と小笠原統一氏による対談～IWA(世界水協会)出版 発行 ◎国土形成計画(全国計画)中間とりまとめを公表します…国土交通省 ◎令和4年度(2022年度)建設投資見通し…国土交通省 ◎令和4年度「生活衛生事業功労者(水道関係功労者)厚生労働大臣表彰」の受賞者を決定しました…厚生労働省 ◎地方公共団体における業務に関するタンピング対策の「見える化」…国土交通省 ◎2022年度の電力需給に関する総合対策…経済産業省 ◎防災気象情報に関する検討会中間とりまとめについて…気象庁・国土交通省 ◎令和3年度完成工事の9割以上で週休2日を達成！～営繕工事における「週休2日促進工事」の取組状況を公表します～…国土交通省 ◎官庁施設の防災性能の低下を防ぐ！「官庁施設の施設管理者のための防災性能確保ガイドブック」…国土交通省 ◎PRESS RELEASE 1：自動化に適した下水中新型コロナウイルスの高感度検出技術(COPMAN法)を開発…北海道大学 SHIONOGI ◎PRESS RELEASE 2：下水中の新型コロナウイルス変異株・病原ウイルスの一斉検出法を開発…山梨大学/北海道大学 ◎「明日への道標」一番の夢は永遠の失業だ一戦場カメラマン キャンパー…(株)日本設備工業新聞社 代表取締役社長 高倉克也◎「東京見て歩き(106)」路面電車、都営荒川線に乗って三ノ輪へ…(一社)スマート水道推進協会会長・(株)日本設備工業新聞社顧問 坂本弘道◎「特別連載」平成を偲ぶパロディ狂歌集(43)一平成一人百首地方行政③(全5首)…弁護士 野平大魚 ◎「フォトエッセーNO.5」続・今よみがえるハリウッド映画のスターたち…IDE研究所 井出浩司 ◎建築着工統計[2022年8月]…国土交通省◎エッセイ 西村修一、新田純子



## 編集雑記

スーパーで食料品を買っていると物価の高騰を思い知らされる。感染症の影響で困窮する家族や学生たちは食費を切り詰めているという話も聴く。円安による原材料などのコスト上昇は企業経営を揺るがせている。物価は上がっても年金は下がり、賃金は上がらない。年末に近づくほど無事に年を越せるのかと心配する人々も少なくないだろう。

生活苦というと石川啄木の短歌「はたらけどはたらけど猶わが生活 楽にならざり ちっと手を見る」を思い出す。啄木は1910年に発刊した初の歌集『一握の砂』で一躍脚光を浴びる。だが肺結核を患い、2年後に26歳の若さで他界する。代用教員や新聞記者をして妻子と両親を養おうとしたものの、生活は死ぬまで安定しなかった。

弱肉強食の格差社会は啄木が生きた時代も現在も変わらない。企業数で99.7%、雇用者数で約70%を占める中小企業の多くは過剰債務や物価高騰の重圧に脅かされている。借金魔と蔑まれた啄木は貧しさがどういものか身に沁みて知っていた。金に減ぼされる者がいる限り啄木の作品は時代を超えて共感を呼びつづけるとわたしは思う。

病床で亡くなる前年の1911年6月27日、啄木は「飛行機」という詩を書いている。給仕勤めの少年がたまに非番の日曜日、肺病やみの母親と家において、ひとりせせとリイダアの独学に励む。不遇な境遇にありながら挫けずに生きようとする孤独な少年は啄木の願いを込めた分身だ。疲れた眼の少年に啄木はこう呼びかける。「見よ、今日も、かの蒼空に 飛行機の高く飛べるを」と。(高倉)

給排水・衛生・環境設備の総合誌

月刊「コア」第397号

令和4年12月10日発行 定価1,000円(税別)

発行編集人 高倉克也

印刷所 (株)日本設備工業新聞社出版事業部

発行所 〒150-0031東京都渋谷区桜丘町10-13

(野元第1ビル)(株)日本設備工業新聞社

TEL (03) 3496-4774(代)

FAX (03) 3464-1884